生活科学習指導案

指導者　京都市立伏見南浜小学校
1年生担任 石川 星美 吉田 朱音 宮崎 愛美

1 日　時　令和８年 11 月 13 日（金） 第５校時（13:10～13:55）

2 学年･組　第1学年（72 名）

3 単 元 名　あきと ともだち

【内容（5）季節の変化と生活（6）自然物や物を使った遊び】

4 単元の目標

秋の自然と関わる活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫して作ったり、身近な自然の違いや特徴を見つけたりすることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること、遊びのおもしろさ、自然の不思議さに気付くとともに、身近な自然を取り入れて自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出したりしようとすることができるようにする。

5 単元の評価規準

<table>
<tr><td colspan="2">単元の評価規準</td><td>知識・技能（知）</td><td>思考・判断・表現（思）</td><td>主体的に学習に取り組む態度（態）</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>秋の自然と関わる活動を通して、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること、遊びのおもしろさ、自然の不思議さに気付いている。</td><td>秋の自然と関わる活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫して作ったり、身近な自然の違いや特徴を見つけたりしている。</td><td>秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然を取り入れて自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出したりしようとしている。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">小単元ごとの評価規準</td><td>導入</td><td></td><td>① 秋の自然の様子や遊びについて、夏の様子と比較したりしながら、伝え合っている。</td><td></td></tr>
<tr><td>活動1</td><td>①秋の自然の様子やほかの季節との共通点や違い、季節の移り変わりに気付いている。</td><td>② 秋の自然の様子や遊びについて、五感を通して感じたり、遊んだりしている。</td><td rowspan="2">① 秋の自然の様子や季節の特徴に応じながら、それらに関わろうとしている。</td></tr>
<tr><td>活動2</td><td>②みんなで楽しく遊ぶには、道具や用具の準備や片付け、整理整頓・掃除をすることが大事だと気付いている。
③身近な自然やそれらで得られた物は、いろいろな遊びに利用できることに気付いている。</td><td>③ 秋の自然物を他のものに見立てたり、その特徴を生かしたりして、実際に作りながら、より楽しいおもちゃにするにはどうすればいいか考えている。</td></tr>
</table>

	活動3	④約束やルールの大切さやそれを守って遊ぶと楽しいことに気付いている。 ⑤遊びの楽しさや、遊びを工夫したり、遊びを作り出したりする面白さに気付いている。	④ 友達のおもちゃや遊び方と比べたり、遊び方を見直したりして、楽しんで遊んでいる。	
	活動4	⑥幼児と交流することについて、その楽しさや、幼児の立場に立って考えることの大切さに気付いている。	⑤ 幼児との交流会に向けて、どのような遊びをすれば楽しんでもらえるかを予想しながら、準備をしたり、交流会でいっしょに遊んだりしている。	
	ふりかえり			② 秋らしい自然の様子や秋ならではの遊びの楽しさを実感し、これからも積極的に自然と触れ合って遊んだり、身近な自然を取り入れ、自分の生活を楽しくしたりしようとしている。

6 幼保小の架け橋プログラムの取り組みについて

本校では、「磨く～自分で考え、選び、決めたことを夢中になって学び続ける～」を研究主題として、児童の主体的な学びの育成に取り組んできた。学校行事や委員会活動、「スマイルタイム」における異学年交流などを通して、児童は互いのよさを認め合いながら活動し、人との関わりの中で学ぶ土壌を育んできた。また、校区の幼稚園・保育園との継続的な交流活動や情報共有を通して、幼児期から児童期への円滑な接続を目指した取り組みを進めてきた。

昨年度は、「しなやかな（レジリエンス）」と「発信力」の育成を目指し、道徳科を中心に研究を進めた。特に、自分の考えを見つめ直したり、他者の考えに触れたりする「磨く時間」を設定したことで、自分事として考えようとする姿勢や、自分の思いを表現しようとする態度に成果が見られた。一方で、考えたことを実際の行動につなげることや、自ら課題を見付けて学び方を選択・調整する力、困難に直面しても粘り強く挑戦し続ける力については課題が残った。

こうした成果と課題を踏まえ、本年度は幼児期から小学校への学びの連続性に着目し、「関わりの中で自分を伸ばし、学び続ける力を育てる幼保小架け橋プログラム」を研究主題として設定した。幼児期の遊びの中では、子どもたちは自ら環境に働きかけ、「何をするか」「どのように進めるか」を自分で選択しながら、友だちとの関わりの中で試行錯誤を繰り返している。こうした経験は、小学校以降の学びにおける自己決定の力や自己調整力の基盤となるものである。

本校は、地域の幼保小の連携・接続の歴史があり、小中一貫教育のつながりとともに幼保小のつながりが重要であると考え、京都市教育委員会『幼保小の架け橋プログラム実践推進事業』の指定を受け、実践研究２年目として、幼児期の学びと育ちを小学校教育へ円滑につなぐ教育の充実に取り組んでいる。そこで、本授業は小中一貫教育授業サミットにおける公開授業として実施し、幼保小の接続の視点を踏まえた授業づくりを発信するとともに、子どもの育ちと学びを連続的に捉える教育の在り方について参観者と共有し、協議を深める機会とする。そのため、架け橋プログラムの成果と課題を実践的に示す場として、本時を位置付ける。

生活科「秋とともだち」は、自然との関わりを通して気付きや発見を深める学習であり、幼児期に親しんできた遊びや環境との連続性を生かしやすい単元である。そのため、本時では保育・幼児教育で育まれた「遊びを通した学び」を基盤として、秋の自然物を活用した活動を展開し、幼児期から児童期への学びの接続を具体的に示したいと考えた。

また、本授業は小中一貫教育授業サミットにおける公開授業として実施し、幼保小の接続の視点を踏まえた授業づくりを発信するとともに、子どもの育ちと学びを連続的に捉える教育の在り方について参観者と共有し、協議を深める機会とする。そのため、架け橋プログラムの成果と課題を実践的に示す場として、本時を位置付けた。

11 月は、入学後半年余りを経た 1 年生が学校生活に十分慣れ、自らの経験や気付きを表現できる時期である。また、次年度入学予定児との交流や接続を見据え、幼児期の学びが小学校でどのように生かされているかを具体的に示すことができる時期でもある。そのため、本単元において幼保小の架け橋の視点を取り入れた授業を公開することには大きな意義があると考える。

本研究を通して、幼保小の連携のもと、幼児期に育まれた学びの芽を確実につなぎ、「自分で考え、選び、決める自己決定の力」「学び方や行動を振り返りながら改善していく自己調整力」「他者と協働しながら問題の本質を捉える力」「よりよい生活や社会を創ろうとする力」を育成するとともに、関わりの中で自分を伸ばし、生涯にわたって学び続ける子どもの姿を目指していく。

【架け橋プログラム取組年間計画】

1学期　7時間

① 架け橋プログラム授業公開　　4月17日
② 図工「すなやつちとなかよし」　　5月27日・29日　京都市立伏見南浜幼稚園
③ 生活「なつとともだち」水遊び　　6月11日
④ 公開保育参観　　6月16日　京都市立伏見南浜幼稚園
⑤ 幼稚園・保育園の先生方への公開授業　6月17日
⑥ 花売り屋さん　　6月19日　京都市立伏見南浜幼稚園
⑦ 休み時間に学校園での交流（草花の種を一緒に植えて育てる（フウセンカズラ））

2学期　12時間

① 図工「カラフルいろみず」　　9月9日・11日
② あきみつけ　　10月13日、14日、19日、20日、21日、22日、26日、27日、28日、30日

③ 遠足　10月8日　　予備日：10月27日　みどりの広場
④ 生活「あきととともだち」　　11月13日　小中一貫教育全国サミット
⑤ 休み時間交流　　ころがしドッジボール、おにごっこなどで交流　学校園で交流

3学期　4時間

① 生活「ふゆととともだち」　1月26日　凧とばしをしよう
②生活「もうすぐ　みんな　2年生」　3月3日　　小学校を探検して、年長さんに紹介しよう
③休み時間交流　　休み時間にころがしドッジボール、おにごっこなどで交流　学校園で交流

7 単元について

【学習対象や学習材について】

本単元は、秋の身近な自然を観察したりそれらを利用して遊んだりする活動を通して、季節の違いや秋の特徴を見つけるとともに、遊びや遊びに使う物を工夫して作ることをねらいとしている。こうした活動を通して、秋の様子や四季の変化、自然を使用した遊びの面白さや自然の不思議さに気付くとともに、身近にある自然を取り入れて生活を楽しくしようとしたり、遊びを創り出したりすることができるようになることを目指している。

児童は幼稚園や保育園等において、園庭や公園、地域の自然の中で、どんぐりやまつぼっくり、落ち葉、木の実などを集めたり、それらを使って工作やごっこ遊び、工夫や試行錯誤を重ねながら遊んだりする経験を積んできている。こうした活動の中で、「もっと集めたい」「比べてみたい」「使って遊びたい」といった好奇心や探究心を働かせながら、自然物の違いや特徴に気付いたり、友だちとアイデアを出し合って遊びを創り出したりしてきた。

子どもたちはこれまでの学習を通して、身近な自然の特徴に気付き、春から夏への季節の移り変わりを感じながら生活してきた。しかし、木々や生き物などの変化に着目することで、変化に気付く児童が多い一方で、そのような視点がなければ、季節の移ろいを十分に実感できていない児童もいる。

本単元では、これまでの学習や経験を想起し、それらと比較したり推測したりすることで、季節の違いや秋の特徴に気付くことができるようにしたい。また、自分の気付きを友だちに伝えたり、友だちの多様な気付きに触れたりすることによって、自然を生かした遊びを思いつくことができるようにしたい。さらに、友だちと一緒に遊ぶことを通して、自然の特徴を遊びに生かすことができることにも気付けるようにしたい。そして、「自然を生かして遊ぶのは楽しい。もっと自然を使って遊びたい。」という思いをもち、他の季節においても、季節の特徴を自分たちの生活に取り入れながら、より豊かな遊びや生活を創り出そうとする姿を期待したい。

本単元は、幼児期に育まれた主体性や協働性、自然への関心を生活科の学びとつなげ、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を具現化できる単元として位置付けている。

また、本単元は、幼児期の「遊びを通した総合的な学び」と、生活科における「対象との直接的な関わりを通した学び」との親和性が高い。そこで、児童が幼児期に培った「夢中になって環境に関わる姿」や「主体的に遊びを創り出す姿」を引き出しながら、自ら学びをつくり出していくことができるよう授業を構想した。

【深い学びに向けて】

〇思いや願いが膨らむ学習を創る

児童は第 1 学年の「あたらしい いちねんせい」や「なかよし いっぱい だいさくせん」「なつだ とびだそう」で春や夏の身近な自然の特徴に気付き、季節の変化を実感してきた。また「さかせたいな わたしの はな」では、自分たちで育てたあさがおをどのように育てていきたいのかをクラスで話し合い、色水やリースを作った。その活動の中で、自分で考えた遊びをもっとしたいと話す児童の姿も見られた。

本単元では、自然と触れ合い、楽しく遊びながら、四季の変化や自然物で作ったもので遊ぶ楽しさ、自然の不思議さに気付くことができるようにしたい。

単元の導入では、幼稚園や保育園等で、秋にはどんな遊びをしたことがあるか、これから秋にはどんな遊びをしてみたいかについて、季節の写真を見ながら話したり、登下校中や放課後の話などから秋を見つけた児童がいれば全体に広げたりすることで、秋への興味関心を高めることができるようする。

これまで児童は、あさがおの栽培や、水遊びなどの学習を通して、「みる」「きく」「さわる」「においをかぐ」

など五感を働かせながら対象を観察し、「気付いたこと」や「不思議に感じたこと」を見つけることを大切にしてきた。本単元もこれらの感覚を十分に生かしながら、秋を探しに行き、秋の自然のよさや面白さを味わえるように支援する。そうすることで、児童は、春や夏との違いに気付き、秋ならではの自然物を見つけたり、比べたり、探したりすることができると考える。また、秋の自然物や、それらを使った作品など写真に記録し、「秋の宝物アルバム」を作成する活動を取り入れる。GIGA 端末を使って継続的に記録を蓄積しながら、学習を進められるようにしていく。

また、観察するだけでなく、遊びを通して秋の面白さに気付くことができるようにする。そして、「葉っぱが大きい。」「どんぐりが丸くて先がとがっている。」など自然物の特徴に目を向けるだけでなく、「どんぐりのとがったところを生かしてこまをつくりたい。」「葉っぱの穴から目を出せるお面をつくりたい。」など創作活動に繋げられるようにしていく。

さらに、これらの気付きや発見、遊びの楽しさを友だちと伝え合う活動を大切にする。友だちの気付きと自分の気付きを比べることで、同じ秋の自然物でも着目する点や感じ方が違うことに気付き、新たな発見が生まれるようにしていきたい。

また、本単元では、学びを活かす場として、架け橋プログラムで連携をしている伏見南浜幼稚園、伏見幼児園、桃陵保育園の3園の年長児を「秋のわくわくおもちゃランド」に招待し、一緒に遊ぶ活動を設定する。事前に各園の教職員と連携を図り、秋の自然物を見つけに行くときにも、年長児と一緒に取り組むことを計画している。4月からの「架け橋プログラム」において、生活科や図画工作科の学習を通して交流を重ねてきたので、お互いに名前や顔を知っている児童もいる一方で、初めて出会う年長児もいることから、小学校を訪れる年長児が期待と緊張を抱いていることを児童に知らせ、相手の気持ちを考えることができるようにしたい。その中で、「一緒に楽しく遊びたい。」「秋の自然物を使ったおもちゃを知らせたい。」という思いを持ちながら、「秋のわくわくおもちゃランド」の準備や活動につなげていきたい。年長児と関わる活動を通して、相手の立場に立って考えたり、優しく教えたりするなど思いやりのある姿が期待できる。この経験は、「わたしたちは、1年生のお兄さんお姉さんなのだ。」「次は2年生のお兄さんお姉さんになるのだ。」という自覚を高め、自らの成長を実感する機会になると考える。

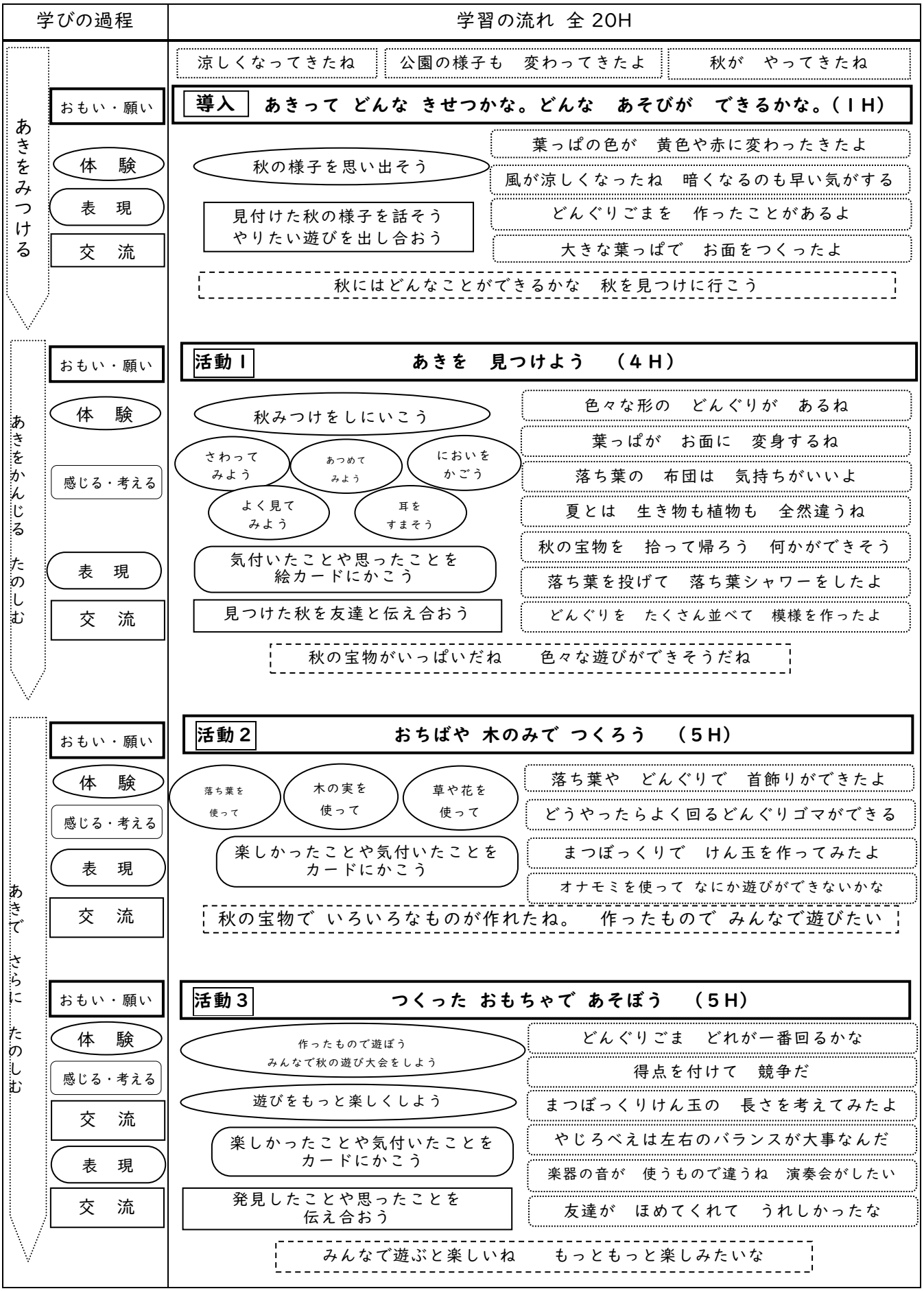
○ 学びを実生活につなぐ

本単元では、身近な自然に触れる活動を通して、自然の様子や自然を利用した遊びの面白さ、自然の不思議さに気付くとともに、自然を生かして自分たちの生活を楽しくしたり、遊びを創り出したりできるようにしたい。自然に触れて遊ぶ中で気付いたことを、「みつけたよカード」や写真、動画等に記録として残していくことで、自分の気付きや遊びづくりの過程を振り返ることができる。また、友だちのさまざまな気付きや遊びにも直接触れることができる。自分で遊びを考えて作り、さらに友だちと交流することで、さまざまな遊び方や工夫に出会い、自然のものを活用して遊びを広げることができるようにしたい。さらに、遊んだことを振り返り、「また作って遊びたいな。」「冬にはどのような遊びができるかな。」と、これからの季節の移り変わりを楽しみにできるようにしたい。公園などには、自分たち以外にも利用者がいることを意識して、「騒ぎすぎない」などの公共のルールやマナーについて考えられるようにすることで、本単元以降も実生活の中で、気持ちよく公園などを利用できるようにしたい。

年長児との交流では、児童の思いや考えを十分に受け止めながら、年長児に「あきのわくわくおもちゃランド」の「招待状」を書いて届けたり、年長児が「どのようなことを楽しみにしているか」「どんな遊びをしたいか」など思いを聞いたりしながら、準備を進めていきたい。また、「どうすれば年長児に喜んでもらえるか」を

考え、自分たちで遊んだ時の経験を基にさらに工夫を加えたり、「秋の宝物」をプレゼンしたりするなど、活動をより充実したものにしていきたい。このような実践を通して、子どもたちが達成感や成就感を味わうことができるようにし、さらに、年長児との交流を通して感じたことや学んだことを今後の生活に活かしていく。この経験を糧として、自分の役割をより主体的に果たしていけるようになることを願っている。

8 単元構想


学びの過程
学習の流れ 全 20H
涼しくなってきたね
公園の様子も 変わってきたよ
秋が やってきたね
あきをみつける
おもい・願い
導入 あきって どんな きせつかな。どんな あそびが できるかな。(1H)
体 験
表 現
交 流
秋の様子を思い出そう
見付けた秋の様子を話そう
やりたい遊びを出し合おう
葉っぱの色が 黄色や赤に変わったきたよ
風が涼しくなったね 暗くなるのも早い気がする
どんぐりごまを 作ったことがあるよ
大きな葉っぱで お面をつくったよ
秋にはどんなことができるかな 秋を見つけに行こう
あきをかんじる たのしむ
おもい・願い
活動1 あきを 見つけよう (4H)
体 験
感じる・考える
表 現
交 流
秋みつけをしにいこう
さわって みよう
あつめて みよう
においを かごう
よく見て みよう
耳を すまそう
気付いたことや思ったことを 絵カードにかこう
見つけた秋を友達と伝え合おう
色々な形の どんぐりが あるね
葉っぱが お面に 変身するね
落ち葉の 布団は 気持ちがいいよ
夏とは 生き物も植物も 全然違うね
秋の宝物を 拾って帰ろう 何かができそう
落ち葉を投げて 落ち葉シャワーをしたよ
どんぐりを たくさん並べて 模様を作ったよ
秋の宝物がいっぱいだね 色々な遊びができそうだね
あきで さらに たのしむ
おもい・願い
活動2 おちばや 木のみで つくろう (5H)
体 験
感じる・考える
表 現
交 流
落ち葉を 使って
木の実を 使って
草や花を 使って
楽しかったことや気付いたことを カードにかこう
落ち葉や どんぐりで 首飾りができたよ
どうやったらよく回るどんぐりゴマができる
まつぼっくりで けん玉を作ってみたよ
オナモミを使って なにか遊びができないかな
秋の宝物で いろいろなものが作れたね。 作ったもので みんなで遊びたい
おもい・願い
活動3 つくった おもちゃで あそぼう (5H)
体 験
感じる・考える
交 流
表 現
交 流
作ったもので遊ぼう
みんなで秋の遊び大会をしよう
遊びをもっと楽しくしよう
楽しかったことや気付いたことを カードにかこう
発見したことや思ったことを 伝え合おう
どんぐりごま どれが一番回るかな
得点を付けて 競争だ
まつぼっくりけん玉の 長さを考えてみたよ
やじろべえは左右のバランスが大事なんだ
楽器の音が 使うもので違うね 演奏会がしたい
友達が ほめてくれて うれしかったな
みんなで遊ぶと楽しいね もっともっと楽しみたいな

あきで　さらに　たのしむ

おもい・願い

体　験

感じる・考える

交　流

表　現

交　流

活動４　　**ようじさんを　しょうたいするじゅんびをして　つくった おもちゃで あそぼう　（4H）**

作ったもので遊ぼう
みんなで秋の遊び大会をしよう

ようじさんがたのしく遊べる
くふうしよう

遊びをもっと楽しくしよう

楽しかったことや気付いたことを
カードにかこう

発見したことや思ったことを
伝え合おう

幼児さんに　招待状を　書きたいな

枯葉のネックレスを　プレゼントしたいな

幼児さんに　わかりやすくルールを教えたいな

幼児さんと　一緒に　遊ぶと　楽しいな

幼児さんが　喜んでくれて　うれしかったな

幼児さんと遊ぶとさらに楽しいね　　もっともっと楽しみたいな

あきをあじわう

おもい・願い

体　験

感じる・考える

交　流

表　現

振り返り　　**あきと　ともだちに　なれたかな　（１H）**

どんなことをしたか振り返ろう

秋で遊んで思ったことや
もっとやってみたいことを話そう

いろいろ遊んで思ったことや　もっと
やってみたいことを　カードにかこう

よく回るどんぐりは形が同じだったよ

秋は　いろいろな色があって　すてきな　季節だ

もっと楽しくなるように　また作り直すんだ

家族や幼稚園の人とも　あそびたいな

いっぱい遊んで 秋のことが大好きになったよ。　秋ってすてきだね　冬も楽しく過ごしたいな。

共通体験　　選択体験　　表　現　　交流　　児童の言葉　　次の活動につながる児童のおもい

9 指導計画

【 指導のポイント ✍手立て !配慮事項 他他教科等との関連 ㊐個別支援 ICT 】

	時	○学習活動 ◆主な発問 子どもの反応	指導のポイント	評価
導入	1	○秋らしいことや物、遊びを出し合い、これからしたいことについて話し合う。 ◆周りや町の様子が変わってきたね。どんな風に変わったか 夏は半袖を着ていたけれど、長袖の服を着ているよ。木の葉の色は、緑だったのに黄色や赤に変わってきたよ。どんぐりが落ちていたよ。 セミの声はもうしないね。コオロギの声が聞こえたよ。 幼稚園の時、葉っぱで遊んだよ。保育園の時、近くの公園に行ってドングリを集めたよ。また、秋の物で遊びたいな。秋が楽しみだな。	✍教科書を見ながら、秋らしい事や物、したことのある遊び、これからしてみたいことを出し合う。 ✍夏遊び単元の活動の様子の写真などを提示し、最近の様子と比較し、季節の変化に目を向けることができるようにする。	思①
活動1	2 3	○秋見つけの散歩をする。 ◆秋見つけに出かけてみよう。 顔くらい大きな葉っぱがあるよ。葉っぱはふかふかでお布団みたい。ぼうしのついたどんぐりが落ちているよ。きれいな色の葉っぱだね。赤い実を見つけたよ。秋の宝物がたくさんだね。拾って帰ろう。何かできそうだよ。	!公園などには自分たち以外にも利用者がいることを意識させ、公共のルールやマナーを考えられるようにする。 ✍見つけたもので遊んだり、体全体で季節を感じたりして、自然の中での活動を大切にする。	思② 態①
	4	○見つけた秋や、秋と遊んだことをカードにかく。 ◆秋見つけに行って、見つけた秋や楽しかったことを書こう。 ドングリをたくさん見つけました。違う木の下には、少し大きいどんぐりが落ちていました。秋の宝物がいっぱいでした。 赤い葉っぱは、手の形をしていました。黄色い葉っぱは、扇子のような形で、筋がたくさんありました。また、秋見つけに行きたいです。	✍遊びに使えそうな木の実や色づいた木の葉を、たっぷり集めるようにする。	知①
	5	○発見や気付いたことを伝え合う。 ◆秋見つけに行き、見つけた秋や気付いたことを友達に伝えよう。 違う形のどんぐりをいくつも見つけたよ。春や夏の公園と違うところがいろいろ見つかったよ。ネコじゃらしを毛虫みたいにして遊んだら面白かったよ。落ち葉の布団はふかふかだったよ。秋になったからできる遊びがあるんだね。夏と違う遊びができてまた楽しかったよ。持って帰ったドングリで早く遊ぶものを作りたいな。	✍見つける・比べる・例える・分類するなど活動をもとに考えている子どものカードを称賛し、気付きを広げるようにする。 ✍「秋」もすてきな季節だと感じられるように、子どもの思いを認めていく。 ✍持ち帰った秋の宝物を使って、「遊んでみたい」という気持ちにつなげていく。	思①
活動2	6 7 8 9	○秋の自然物の特徴から発想を広げて、おもちゃや造形物などを作る。 ◆秋の宝ものの良いところを生かして、楽しめるものを作ろう。 いろんな形を生かしてどんぐりでネックレスをつくりたいな。よくまわるドングリごまを作りたいけど、どのドングリが良く回るかいろいろ試したいな。大きな葉っぱがぴったりだったから、かんむりにしたよ。オナモミのまとあてゲームは楽しいよ。うまくくっつくようにまとを工夫したよ。落ち葉をいっぱい集めて、宝さがしを作ろう。宝はつやつやのどんぐりにしようかな。	!きりなどの道具は専用コーナーを設けて決まった場所に置く。道具の使い方も指導する。道具の使い方は、P.71 の二次元コード（どうぐ）や「ひろがるせいかつじてん」P.6 で確認する。 ✍作った物で友達と遊んだり、気付いたことを伝えたりできるように場を工夫する。 ✍物が壊れても修理できるよう、用具や材料を設置した「修理コー	思③ 知② 知③ 態①

	10	○秋の自然物を使って、おもちゃや造形物などを作る中で、楽しかったことや気付いたことを伝え合う。 ◆秋と遊んで、楽しかったことや気付いたことを伝え合おう。 すてきなアクセサリーができたよ。ぼくは葉っぱとどんぐりで動物を作ったよ。細いひげは松の葉を使うといいよ。オナモミはよく見るととげの先が曲がっているからこれが引っかかってくっつくんだ。引っ付きむしの草もそうなのかな。どんぐりもちょっとずつ形がちがって回り方も違うんだけど、ぼくのこまは形や大きさを選び抜いてつくったからよく回るよ。つまようじを真ん中にさすと、こまが長く回ることがわかったよ。秋のものでこんなに遊べるなんて思ってなかったから、ほかの秋のものでももっと遊びたいと思ったよ。	ナー」を作っておく。 ✍落ち葉、木の実、草や花の特徴や性質を生かした遊びを紹介することで、気付きの視点を広げられるようにする。 ✍これまでに遊んだ記録や、教師が撮ってきた写真などを用意して、振り返りのための環境作りをしておく。	
活動3	11 12 13 14 15	○秋の自然物を利用して作ったおもちゃで遊ぶ。 ◆みんなで秋を楽しむ会の準備をしよう。 みんなが作ったもので遊びたいな。教室を秋でいっぱいにしよう。こまがもっとよく回るように作り直そう。 ○秋の自然物を利用して作ったおもちゃで遊ぶ『遊び大会』をする。 ◆みんなで秋の『○○大会』をしよう。 友達が作ったでんでんだいこは、いい音がしたよ。松ぼっくりのけん玉は、なかなか入らなかったよ。おなもみの的あてで、真ん中に当たったよ。どんぐり迷路は、難しかったよ。枯れ葉のお風呂は、気持ちよかったよ。いろんな遊びが作れて秋ってとても楽しい季節だと思ったよ。いろいろこれからも秋を楽しみたいな。	✍秋を楽しむためという意図が分かりやすい会の名前をみんなで決めるようにする。	知④ 思④ 知⑤
活動4	16 17 18 本時 19	○幼児（年長児さん）と遊ぶ交流会を計画する。 ◆小さなお友達（年長児さん）を『秋のわくわくおもちゃランド』に招待して、一緒に楽しもう。 招待状を書こうよ。どうすれば楽しんでくれるか考えようよ。体が小さいから、けん玉のひもを短くしよう。枯れ葉のネックレスをプレゼントしよう。 ○幼児との交流会「秋のわくわくおもちゃランド」を開く。 どんぐりごまが「楽しい。」と言ってくれたよ。プレゼントを喜んでくれたよ。 ○幼児との交流会「秋のわくわくおもちゃランド」を振り返る。 ◆うまくできたことや感じたことを伝え合おう。 みんなに楽しんでもらって良かった。自分たちだけで遊ぶより楽しかったよ。また交流したいな。	！教師は、事前に、幼稚園・保育園等と交流会のねらいや内容などを打ち合わせ、幼児の姿を把握しておく。 ✍「小さい子と遊ぶ時は、どのようなことに気を付ければいいのかな。」などと問いかけ、相手意識をもたせて、どのような準備が必要かを考えるように促す。 ✍交流会を実行する際は、子どもが園児と一緒になって活動できるように工夫する。幼児との関わりを深めるために、ペアで活動する。	知⑥ 思⑤
振り返り	20	○活動を振り返り、したことや、もっとやってみたいことなどを伝え合う。 ◆これまでの学習で楽しかったことや頑張ったこと、もっとやってみたいことを伝え合おう。 「遊び大会」がとても楽しかったよ。どんぐり迷路の道を、どんぐりがコロコロ転がるように頑張って作ったよ。何回もためして、よく回るこまを作ったよ。木の実は大きさによって、音がちがったよ。秋は、夏とは違う遊びができたね。作ったおもちゃで、もっとたくさんの人に遊んでもらいたいな。	✍「春や夏とは何が違うかな。」などと問いかけ、春や夏との違いに気付いた発言を取り上げる。これまでの季節の記録を掲示しておくことでも、季節の変化に気付きやすくする。	態②

重点評価場面（例）

・知　「秋の特徴やよさ、季節の変化について気が付いたことがわかる発言やカード等」【6～9時間目】

「自然を利用した遊びの面白さや不思議さなど気付いたことを書いた振り返りカード等」【10時間目】

・思　「秋の自然を生かして工夫して遊んだり遊びを創りだしたりしている行動やそれがわかるカード等」

【6～9、11～13、19時間目】

・態　「これからも積極的に秋ならではのものに関わろうとする様子が分かるカード等」【16、20時間目】

10 本時について（ 18／20 時間目）

（1）目標

年長児に秋の自然物を使った遊びを楽しんでもらうために、年長児に合わせて遊び方や遊びのルールを工夫し、一緒に楽しく遊ぶことができるようにする。

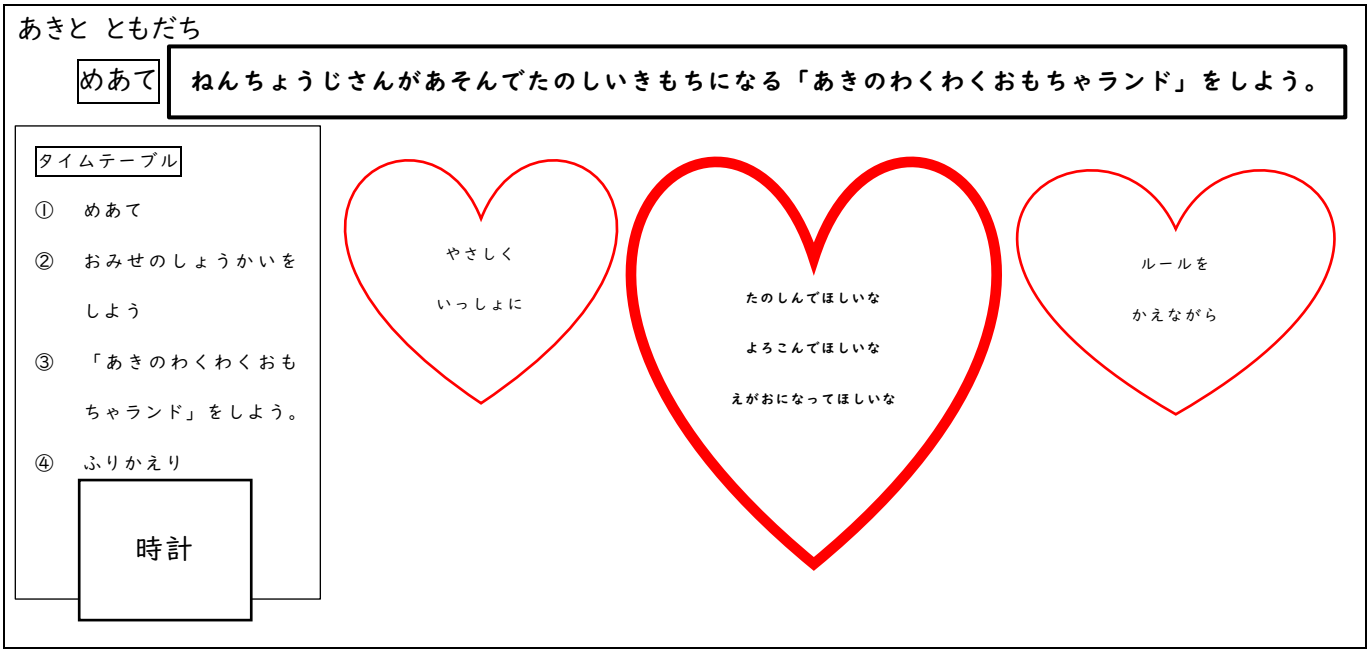
（2）展開

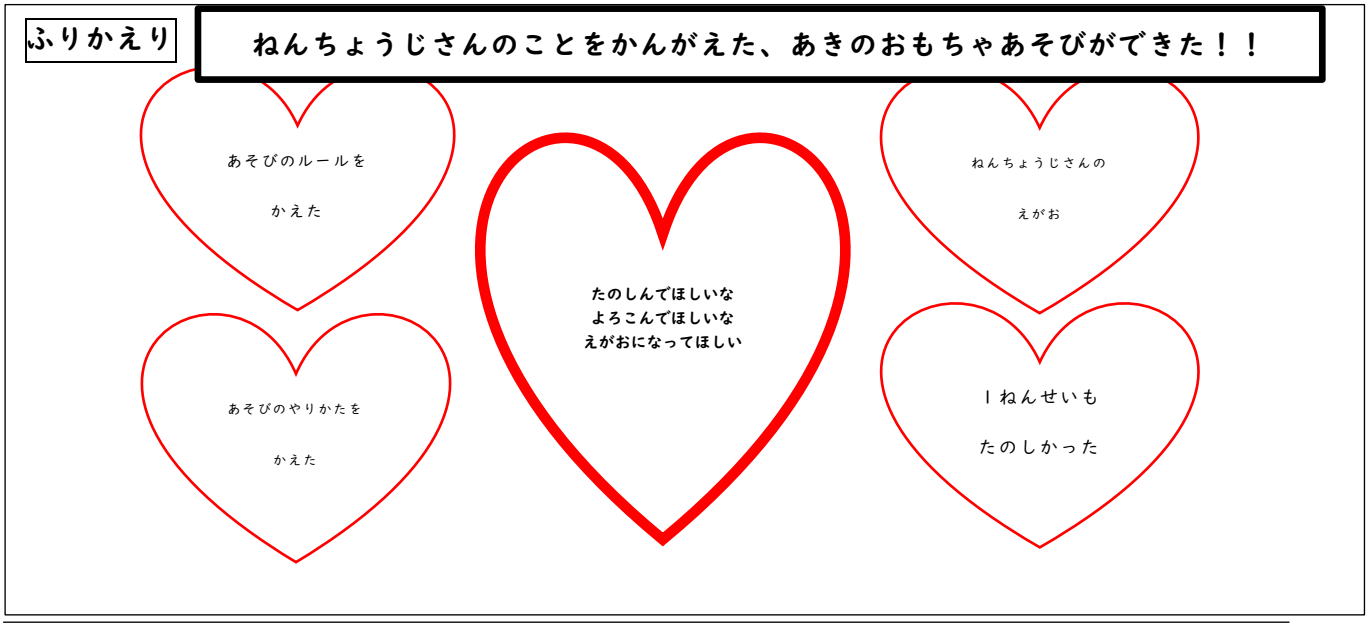
○学習活動　・児童の反応	◇支援 ＊留意点 ㊒個別支援
1.前時の学習を振り返り、本時の学習のめあてを確かめる。	◇年長児が楽しく遊ぶことができる遊びを考えてきた過程をふりかえることで、年長児さんの気持ちに寄り添うことができるようにする。
ねんちょうじさんがあそんでたのしいきもちになる「あきのわくわくおもちゃランド」をしよう。	
2.年長児と一緒に秋の自然物を使った遊びをする。 <おもちゃランドのお店をする 1 年生> ・はっぱつりは、つりざおのひもを太いひもにしたよ。年長児さんも楽しく遊べていて嬉しいな。 ・どんぐりごまは年長児さんも回しやすいように、棒を短くしたから、長い時間回せるようになったよ。年長児さんが嬉しそうにしていて、ぼくも嬉しいな。 <年長児さんと一緒にペアで回る 1 年生> ・どこのお店に行きたい？ 行きたいところにつれていってあげるね。 ・的が遠いかな？じゃあ、ちょっと前に行っていいよ。 ここから投げてみよう！	㊒材料や道具を使用するときには、安全面に気をつけて作業をするように声をかける。 ＊1 年生と年長児でペアグループを作り、一緒に遊んだり作ったりと、一緒になって楽しむことができるようにする。 ＊一緒に遊ぶ中で、年長児にアドバイスをしたり、歩くペースを合わせたりと、年長児の立場に立って活動できるようにする。 **自己調整力** ＊年長児の気持ちに寄り添って、どんな言葉をかけたらよいかを考えて行動することができるようにする。**自己決定の場** ◇遊びの中で困りごとが出てきた時には、同じお店の友だちと共有するよう声をかけることで、さらに自分の考えた遊びにも生かすことができるようにする。
3.本時の振り返りをする。 ・的当てコーナーでは、初めに考えていた線よりもさらに、近づいてもらうと、年長児さんもよく当たったよ。 ・どんぐりめいろコーナーでは、どんぐりがゴールに入ると、年長児さんが笑顔になっていてとても楽しかったよ。 ・年長児さんと一緒に楽しく遊ぶことができて、嬉しいな。	◇実際に遊んだものを見せながら、年長児の気持ちを考えたつぶやきや発想を紹介することで、さらに遊びのよさに気付くことができるようにする。 ◇年長児の感想を聞くことで、年長児の立場に立って考えることの喜び・大切さに気付くことができるようにする。

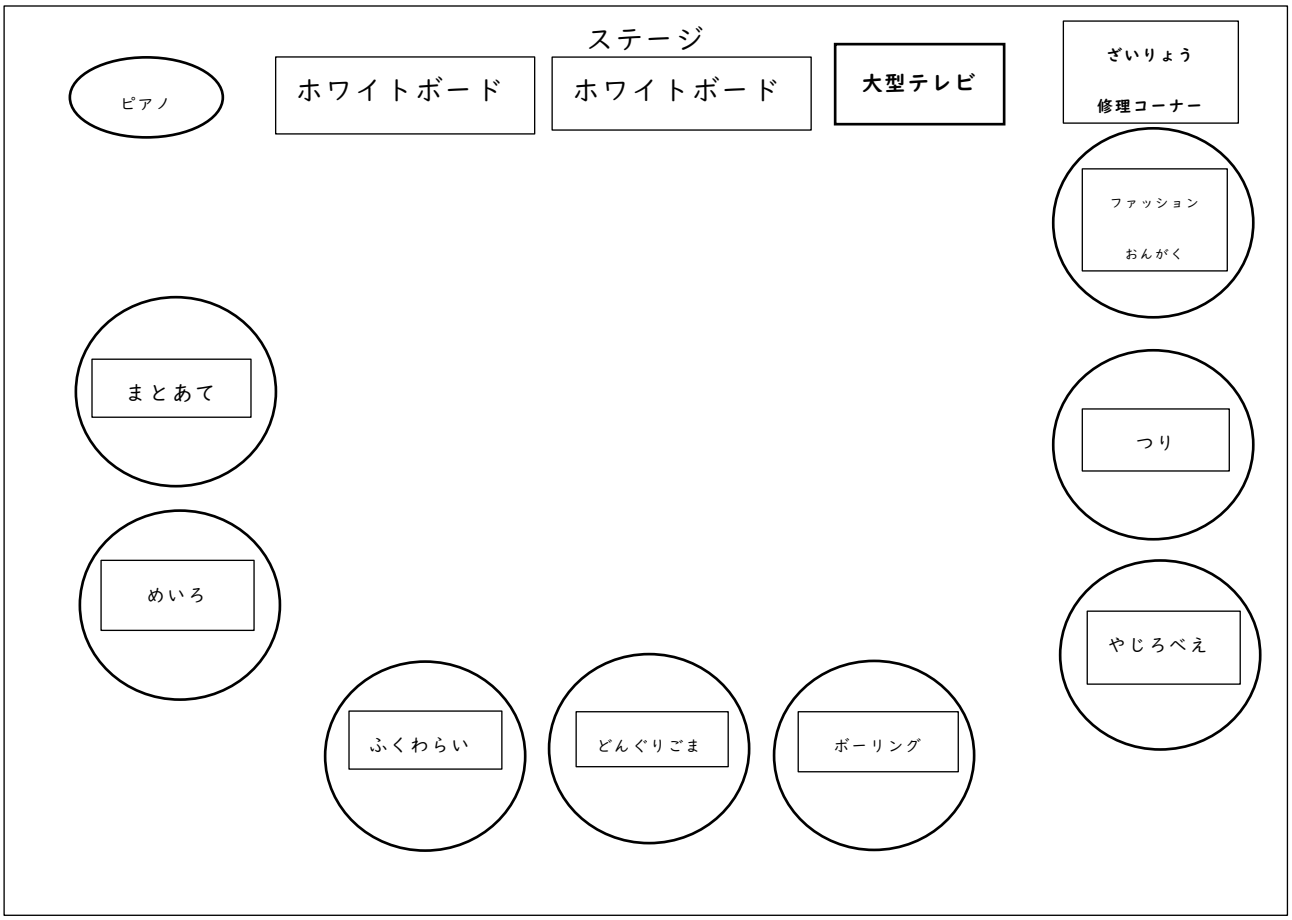
（3）評価

【思】	・年長児のことを考えながら、秋の自然物を使ったおもちゃの遊び方を考えたり、遊び方のルールを工夫したりして一緒に遊ぶことを通して、年長児さんの立場に立って考えることの大切さに気付くことができるようにする。
「おおむね満足できる」状況と判断できる「発言・行動・記述」	
・わたしは、年長児さんが遊ぶときには、どんぐりボウリングで投げる距離を短くしたら、当たりました。年長児さんと遊ぶと、ボウリングのピンがたおれて、とても楽しそうにしてくれていました。楽しそうな笑顔を見て、やり方を変えてよかったです。 ・どんぐりごまの大きさを変えてみたら、よく回るようになりました。年長児さんがどんぐりごまを回すと、長い時間回っていました。とても喜んでくれたので、作り方を工夫してよかったです。	

（4）板書計画　ホワイトボード2枚







(6) 学習カード(ワークシート)の工夫など

あきと　いっしょに　　なまえ（　　）

めあて　**ねんちょうじさんがあそんでたのしいきもちになる、あきのおもちゃあそびをかんがえよう。**

あそびのなまえ「　　」

ねんちょうじさんがたのしくあそべるためには？

あそびかた

(7) ICT 活用　大型テレビ

児童がつくったものの写真や動画

全体交流の際に、大型画面に児童が秋の自然物で作ったおもちゃの写真や動画を流す。